

- 昨年度のバリアフリー施設等データ整備システムでの現地実証に引き続き、歩行空間NWデータ整備システムにおいても、AIを用いたデータ整備の効率化について現地実証を実施する。
- 動画撮影により、リンク属性の自動抽出を行ない、機能性・操作性・作業効率化の検証を行う。

実施概要(案)

目的	AIを用いたプロトタイプシステム及び歩行空間NWデータ整備システム(既存)を使用してデータ整備の現地実証を実施することで、技術的な課題やほこナビDPの効率的な運用を検証するとともに、継続的なほこナビDPのデータ整備・運用(体制等)に係る課題等を検討
時期	2026年10月頃～2027年2月末(予定) (現地実証は1日程度)
エリア	現地実証1箇所+提案範囲

* 現地実証で整備する延長は、公募後に詳細調整
* 現地実証以外の日においてもシステムは利用可能とし、データ整備を進めていただく予定
* 提案範囲が広ければ選定を優位にする予定

検証事項(案)

a.AIを用いたリンク属性の自動抽出(技術検証)及び既存システムとの比較

- 形状データのリンク上を、スマホアプリで動画撮影しながら歩く
- 自動抽出された属性が、整備システム上に反映される
- 既存システム整備結果との比較



撮影

目視

- 技術的課題の検証
- 機能性・操作性・作業効率化の検証

b.歩行空間NWデータ整備システム(既存)を用いたデータ確認・修正

- 左記システムによる抽出結果の確認・修正
- 現地実証外(提案範囲)のデータ整備

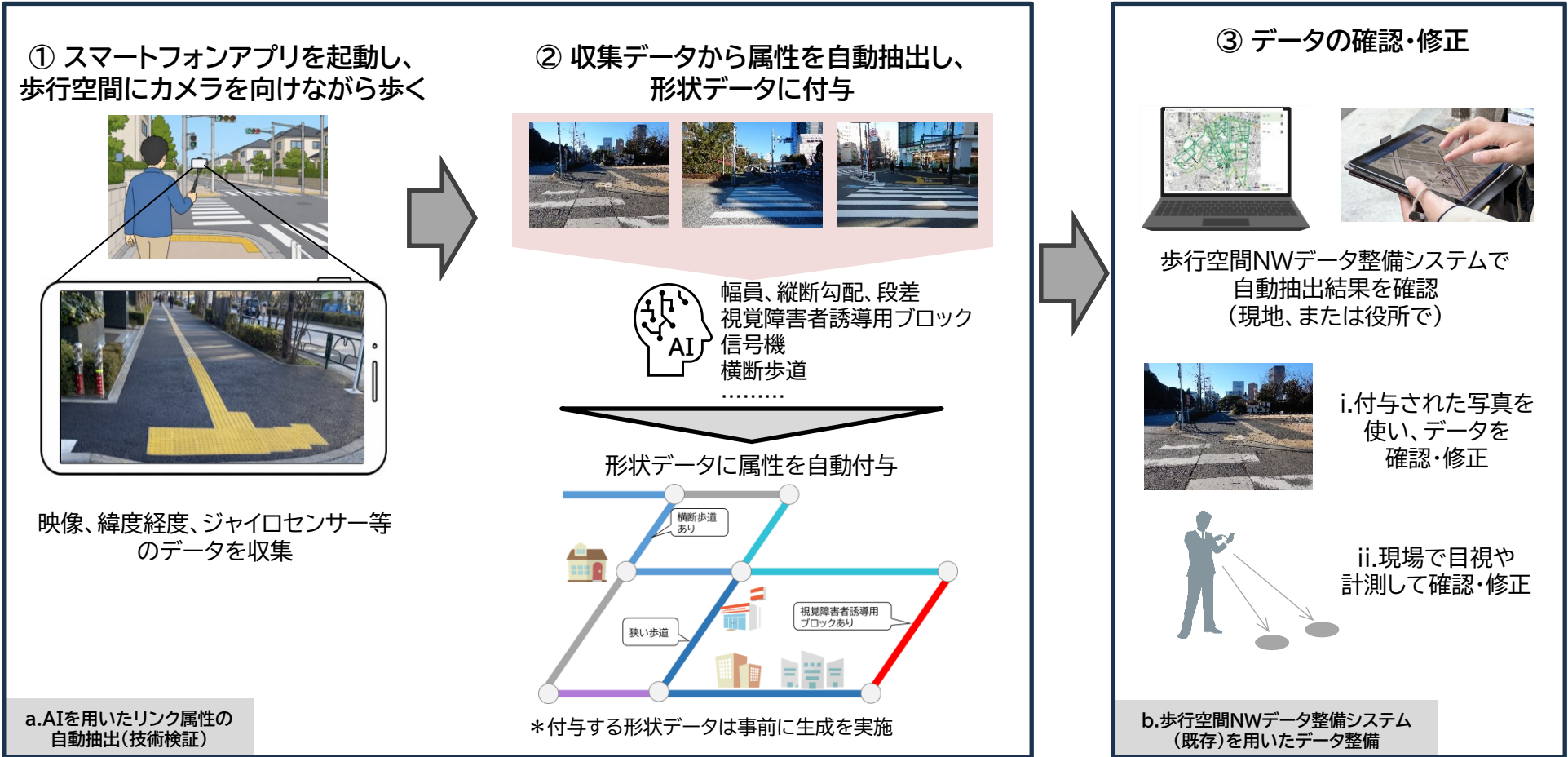


システムを利用する際の課題等の確認

継続的なデータ整備・運用(体制等)に係る課題等の確認

*バリアフリー施設等データ整備システムについてもシステム紹介の上、データを整備いただく。

- ①新規開発のスマートフォンアプリ上で形状データの開始地点と終了地点を指定。カメラを向けて動画撮影しながら、その経路を歩く。
- ②バリア(幅員・縦断勾配・段差)や設備(点字ブロック等)がAIにより自動抽出され、形状データに属性が付与される。
- ③属性の確認や修正を歩行空間NWデータ整備システム(既存)を使って実施、AI活用による効率性向上効果を検証。





- 実施団体(自治体等)については公募により選定する。
- 選定に当たっては、「データ整備・更新の方法が具体的であること」や「利活用が提案されていること」を特に優位に評価する要件とする。

募集要領の概要(案)

対象者	地方公共団体 または 地方公共団体を構成員とする協議会	実施項目	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
公募期間	2026年9月3日～2026年10月2日	実施主体選定		➡					
実施期間	2026年10月頃～2027年2月末(予定) (現地実証は1日程度)	実証準備～実施			➡				
		成果とりまとめ						➡	
提出書類	以下の概要記載の「提案書」を提出していただき、選定基準に基づき総合評価 ・現在のバリアフリー施策の取り組み状況、実施体制 ・本事業における対象エリアと選定の考え方 ・将来のデータメンテナンス(整備・更新)方法 ・データの利活用方針								
選定基準	以下の要件を考慮の上、総合的に評価を行い実施主体を選定 ①現地事業で整備するデータのほこナビDPを活用したデータ整備・更新の方法が具体的に提案されている。 ②歩行空間ネットワークデータを利活用した具体的なサービス案が提案されている。								